

会議の状況

I 平成28年度第3回青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議監視委員会

1. 日 時 平成28年11月28日(月) 14:00~16:00

2. 場 所 ホテル青森 3階 孔雀の間

3. 出席委員 29名

4. 提出資料

資料 1 会議の状況

冊 子 原子力施設環境放射線調査報告書(平成28年度第1四半期報)

冊 子 東通原子力発電所温排水影響調査結果報告書(平成28年度第1四半期報)

参考資料1 返還ガラス固化体及び使用済燃料受入れに係る立入調査及び環境放射線測定の結果

参考資料2 原子燃料サイクル事業の現在の状況について

参考資料3 東通原子力発電所の現在の状況について

参考資料4 リサイクル燃料備蓄センターの現在の状況について

参考資料5 平成27年度原子力施設等防災対策等委託費(海洋環境における放射能調査及び総合評価)事業について

広 報 誌 モニタリングつうしんあおもり No. 102

5. 概 要

(1) 議事

ア 原子力施設環境放射線調査結果(平成28年度第1四半期)について

(ア) 原子燃料サイクル施設

県及び日本原燃(株)から冊子により説明があり、次のとおり確認された。

- ・原子燃料サイクル施設に係る平成28年度第1四半期の環境放射線等調査結果は、これまでと同じ水準であった。原子燃料サイクル施設からの影響は認められなかった。

(イ) 東通原子力発電所

県及び東北電力(株)から冊子により説明があり、次のとおり確認された。

- ・東通原子力発電所に係る平成28年度第1四半期の環境放射線調査結果は、これまでと同じ水準であった。東通原子力発電所からの影響は認められなかった。

(ウ) リサイクル燃料備蓄センター

県から冊子により説明があり、次のとおり確認された。

- ・リサイクル燃料備蓄センターに係る平成28年度第1四半期の環境放射線調査結果はこれまでと同じ水準であった。

委員から、原子燃料サイクル施設を対象に実施しているモニタリングカーの走行測定で、過去の測定値を上回った理由について質問があり、県から、自然放射線が高い場所であることに加え、測定の変動が重なったため、との回答があった。

イ 東通原子力発電所温排水影響調査結果（平成28年度第1四半期）について
県から冊子により説明があり、今後も引き続き調査を継続し、データの収集に努めていくこととした。

(2) その他

ア 返還ガラス固化体及び使用済燃料受入れに係る立入調査及び環境放射線測定の結果
県から参考資料1により、返還ガラス固化体等受入れに当たり、県及び六ヶ所村が立入調査を実施し、輸送物の検査結果は法令に定める基準内であること、一連の作業は安全に終了したこと、また、輸送物の受入れに伴う周辺住民に対する影響は認められなかったことについて説明があった。

イ 原子燃料サイクル事業の現在の状況
日本原燃(株)から参考資料2により各事業の運転状況等について説明があった他、電波法に基づく高周波利用設備の申請漏れに関する調査結果及び再発防止対策等について説明があった。

ウ 東通原子力発電所の現在の状況
東北電力(株)から参考資料3により東通原子力発電所の運転状況等について説明があった他、同発電所における原子炉圧力容器の炭素偏析の可能性に係る調査及び評価結果等について説明があった。

エ リサイクル燃料備蓄センターの現在の状況
リサイクル燃料貯蔵(株)から参考資料4によりリサイクル燃料備蓄センター使用済燃料貯蔵事業変更許可申請書の一部補正として事業開始時期の変更等について説明があった。

オ 平成27年度原子力施設等防災対策等委託費（海洋における放射能調査及び総合評価）事業（青森県関係データの抜粋）
原子力規制庁が実施している標記事業の青森県関係の調査結果抜粋について、受託者である(公財)海洋生物環境研究所から、参考資料5により説明があった。

委員から、平成28年11月に発生した日本原燃(株)再処理工場精製建屋における非常用無停電交流電源装置の故障について質問があり、事業者から、故障したB系は既に復旧しており、現在は詳細な原因調査をしている、との回答があった。

II 平成28年度第4回青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議評価委員会

1. 日 時 平成29年1月31日(火) 13:30~15:30

2. 場 所 ホテル青森 3階 孔雀の間

3. 出席委員 18名

4. 提出資料

資料 1 会議の状況

資料 2 原子力施設環境放射線調査報告書(案)(平成28年度第2四半期報)

資料 3 東通原子力発電所温排水影響調査結果報告書(案)(平成28年度第2四半期報)

参考資料1 原子燃料サイクル事業の現在の状況について

参考資料2 東通原子力発電所の現在の状況について

参考資料3 リサイクル燃料備蓄センターの現在の状況について

5. 概 要

(1) 議事

ア 原子力施設環境放射線調査結果(平成28年度第2四半期報)について

(ア) 原子燃料サイクル施設

県及び日本原燃(株)から資料2により説明があり、次のとおり評価された。

- ・原子燃料サイクル施設に係る平成28年度第2四半期の環境放射線等調査結果は、これまでと同じ水準であった。原子燃料サイクル施設からの影響は認められなかった。

(イ) 東通原子力発電所

県及び東北電力(株)から資料2により説明があり、次のとおり評価された。

- ・東通原子力発電所に係る平成28年度第2四半期の環境放射線調査結果は、概ねこれまでと同じ水準であった。東通原子力発電所からの影響は認められなかった。
なお、海産食品中のガンマ線放出核種分析結果に、東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所の事故の影響により、平常の変動幅を上回った測定値があったが、住民等の健康と安全に影響を与えるレベルではない。

(ウ) リサイクル燃料備蓄センター

県から資料2により説明があり、次のとおり評価された。

- ・リサイクル燃料備蓄センターに係る平成28年度第2四半期の環境放射線調査結果は、これまでと同じ水準であった。

委員から、表土(比較対照(青森市))の採取場所を変更した理由について質問があり、県から、当該採取場所は平成26年に県から民間へ所有権が移転し、今年度から土地の利用方法が変更され表土の採取ができなくなったことから、公有地に採取場所を変更した、との回答があった。

委員から、ヒラメ(東通村太平洋側海域)のセシウム-134とセシウム-137の放射能濃度比について質問があり、事業者から、セシウム-134は定量下限値未満であるが、放射能濃度比は1:6程度である、との回答があった。

イ 東通原子力発電所温排水影響調査結果（平成28年度第2四半期報）について
県から資料3により説明があり、今後も引き続き調査を継続し、データの収集に努めていくこととした。

(2) その他

ア 原子燃料サイクル事業の現在の状況

日本原燃(株)から参考資料1により各事業の運転状況等について説明があったほか、濃縮・埋設事業所（加工施設）に対する平成28年度第3回保安検査の結果等について説明があった。

イ 東通原子力発電所の現在の状況

東北電力(株)から参考資料2により東通原子力発電所の運転状況等について説明があったほか、東北電力(株)原子力発電所における雨水の浸入防止措置に係る調査結果について説明があった。

ウ リサイクル燃料備蓄センターの現在の状況

リサイクル燃料貯蔵(株)から参考資料3により新規規制基準に係る適合性審査の状況について説明があった。

委員から、参考資料1の濃縮・埋設事業所（加工施設）に対する平成28年度第3回保安検査の結果を受け、日本原燃(株)が今後取り組む社内風土改善の重点について質問があり、事業者から、コミュニケーション不足を解消し、会社全体として風通しのよい環境としていきたい、との回答があった。

委員から、参考資料2の東通原子力発電所原子炉建屋への雨水浸入防止措置に係る調査について質問があり、事業者から、原子炉建屋の近くは雨水が局部的に溜まるような場所がなく、入口は地面より20cm以上の高さであり、設計基準どおりとなっていることを確認した、との回答があった。

また、浸水対策について質問があり、事業者から、雨水浸入対策とは別に津波等の浸水対策として外扉にゴムシールを貼る等の対策を実施している、との回答があった。